

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語教育における地域語教育のあり方に関する調査
Author(s)	エカ マレティヤニンシ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 1992 : 1 - 9
Issue Date	1993-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039318
Right	
Relation	



日本語教育における地域語教育のあり方に関する調査

エカ マレアイヌニンシ

要旨

留学生の地域生活に際して、地域語(方言)が実際に必要となる場合、その重要性を認識し、積極的に学習することの必要性を指摘する。また、地域語(方言)の学習は、単に言葉の習得だけでなく、その文化や生活様式を理解し、コミュニケーション能力を高めることにも役立つ。調査の結果、多くの留学生が地域語の学習に興味を示し、積極的に取り組んでいることが分かった。しかし、学習の機会や教材の不足など、課題も存在する。今後の地域語教育の充実に向けて、関係機関や地域住民との連携を強化し、学習環境を整えることが重要である。

I. 初めに

方言とは、ある特定の地域で話される言葉のことである。方言は、その地域の歴史や文化を反映しており、地域住民のアイデンティティを形成する重要な要素である。しかし、標準語の普及により、方言の使用は減少傾向にある。この調査では、留学生の地域生活における方言の役割や学習の必要性について探る。また、方言の学習が地域文化の継承や国際交流に果たす役割についても考察する。

方言の学習は、単に言葉の習得だけでなく、その文化や生活様式を理解し、コミュニケーション能力を高めることにも役立つ。調査の結果、多くの留学生が地域語の学習に興味を示し、積極的に取り組んでいることが分かった。しかし、学習の機会や教材の不足など、課題も存在する。今後の地域語教育の充実に向けて、関係機関や地域住民との連携を強化し、学習環境を整えることが重要である。

表 1

広島弁の言語研究		聴解値	頻度			
			1	2	3	
1.	毎日何を(しとまん)。(していま)	20	100%	25%	20%	50%
2.	おんが時間もう(かどった)。(かていた)	18	90%	30%	25%	40%
3.	試験が(みやすい)。(やさしい)	16	80%	55%	20%	20%
4.	今ごろ花が(さいとまん)。(さいていま)	17	85%	35%	20%	40%
5.	ゆうべ獲らえながったけ、今日は(しんどい) (疲れた)	9	45%	30%	15%	50%
6.	今ごろ(ぬくい)ね。(あたたかい)	8	40%	45%	15%	35%
7.	もう(ようがさ)。(いいごほう)	14	70%	55%	20%	15%
8.	今日は学校へ(行かん)よ。(行かた)	15	75%	30%	10%	55%
9.	御飯はもう(みてた)。(たくな)。	0	0%	75%	20%	0%
10.	おんがおんがことは(せん)よ。(しな)	14	70%	35%	10%	30%
11.	もう(いぬま)よ。(帰え)	1	5%	75%	10%	5%
12.	こ、ちに(きんさい)。(来たさい)	15	75%	35%	30%	30%
13.	(はよう)勉強しんさい。(はやく)	19	95%	35%	30%	30%
14.	(うち)はも、とらん。(わたし)	13	65%	40%	10%	40%
15.	(どうしたん)の。(どうした)	17	85%	20%	40%	35%
16.	明日は絶対に雨(しやけ)。(だから)	10	50%	35%	10%	50%
17.	あのくっは(なんぼ)。(いくら)	7	35%	45%	20%	25%
18.	今(行くけん)。(行くけん)	13	65%	40%	20%	35%
19.	掃除(せんにいけん)。(しなけんは"けんない")	10	50%	35%	20%	40%
20.	今日家に(おまん)ね。(いま)	17	85%	30%	10%	50%

(4)

表から、概して、方言がよく理解できてゐることが分かる。一番理解できてゐるのは「してまん」(100%)である。こんな表現はよく使用されてゐるし、留学生もよく耳にある。次は「はよう」である。その場合は共通語として悪んばに違、ていねいから、わかりやすいと思う。「あと、た」はおまわり耳にしないと思うが、よく理解できてゐる。他は「といしてまん」の場合もしてまんに似ている。また「行かん」については否定形の言葉を悪んばによく耳にしないようだ。広島弁の否定形の場合は「ん」を付けてゐるが、関西弁では「へん」を付けてゐる。そういうのは方言の微妙なところである。つまり地域によつて表現方法が各特徴を持つてゐる。

五。アンケートによる地域語に対する態度調査

調査対象は最初の調査対象と同じだ。調査項目は10あり、自分にとつて適当な答を自由に選ばせた。今回の問題では留学生にとつて方言はどのような思ふてゐるのか、自分にとつて方言を習得するのは本当に役に立つと思ふのかを明らかにしたいと思つた。として回答に

- a. は はい
- b. は いいえ
- c. は わからない

しかし、8番の場合は、違う回答がある。

では、今回アンケート項目と調査の回答結果は次の通りである。

	項目	A.	B.	C.	無回答
1.	広島弁はおもしろいと思ひますか。	75%	5%	15%	5%
2.	あなたは方言を使つてゐる時、日本語の変わった言葉を話さうな感じがしませんか。	25%	50%	25%	-
3.	方言が理解できなれば、日本人と話をする時、役に立つと思ひますか。	60%	15%	25%	-
4.	方言が理解できなれば、日本人と話す時困りますか。	55%	20%	25%	-
5.	方言が使えたら、日本人と話をする時、実際に使ひますか。	70%	15%	15%	-
6.	方言を習ひたいと思ひますか。	60%	10%	30%	-
7.	方言を習ふ必要があつたと思ひますか。	45%	30%	25%	-

8.	日本語教室での方言と標準語の使用について あなたはどう思いますか。 a. も、どちら標準語を使い、方言は使うべきではない。 b. も、どちら方言を使うべきである。 c. 両方使うほうがよい。	50%	0%	50%	-
9.	日本人は留学生と話す時、方言で話しますか。	35%	10%	55%	-
10.	その時大阪弁は理解できますか。	55%	15%	25%	5%

II. 各項目の検討

1. の回答について

まず、この質問がある方言の中では、初めど人なことから目を
つけたらよいでしょう。この「王本は一番は、久米詞です。相手にも
この言葉を何のセンテンスの結びの言葉として使います。相手が「のう」
と言った時の言葉も、おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
その場の場面も、代名詞や、動詞活用も、おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。
あまた、例えば聴解の問題からと、たまたま、葉は大阪弁では行かない。行かない。行かない。
人に、なり、大阪弁の場合には行かへん。人となふ。もし標準語ではしなげ
なげなう、ないが、大阪弁はせんにいけん。それは一つの動詞活用ど
うか。だが、人な、大阪弁におもしろい。と思、ていふのは適切なこ
とだと思、たせなう方言は各地の方言の発音、言葉の表現が
あまたし、訛りもあるからである。

2. の回答について

この問題に対し、ほとんどの回答は「味がある」「深み
がある」の点で評価が低い。「きたない」「大声」「若い女性に聞こえ
しくない」「乱暴」とし、かなり異な、イメージとなる。(岩波; 1977;
25) そういふイメージがあるから方言は変な日本語なのかという疑問
に、た、た。笑はさうおろう。逆にここの意見がある。
「葉は方言を決して悪いとは思われない。むしろ標準語は一つの方
言だと、教える価値がある。標準語は美しい方言が、た、ないという物
の考え方は明らか。一つの差別ではないが、ここの思、ここの思、ここの思。
方言は素敵に美しい。もし標準語より明らかに、言語心理のひだまり
表現し、得るここの思、ここの思。(小野; 1991; 108)

この考え方によると、決して方言は変な日本語では言えない。標準
語の中にある言葉が表現することごとく、方言で表現できなげなうば、
方言で表現できる。例えば、換言すれば、「わが生活の基、ちから、地方
色が豊かに表われる表現の一つである。そういう方言は特別な機能

を持、ていふし、価値がめま言葉めめる。だがうこま変な言葉だとはい
言えない。月本語の中で、もと自然の美しい言葉には、ていふのど
はないうが。

3の回答について
月本人と、ていふも、住み慣れた地域を離れて新しい地域に移る、た
初使用とどうも、こころがしばしば出てくる。なまは、なまは、なまは、なまは、
地場の言葉が通じないこと、ていふも、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
逆には、留学生に、ていふも、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
留得した言葉は、標準語、ていふも、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
いけないうが、中、ていふも、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
がないうが、中、ていふも、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
とていふも、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
人、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
う、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
に相違ない。

4の回答について
この問題について、夕番目と関連して、月本人も、ていふも、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
まこと、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
い、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
ま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
ショ、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
し、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
よう、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
て、あま、あま、あま、あま、あま、あま、

5の回答について
外国人とは、ていふも、決して、月本人と、同じようには、地域語を、使うのは、
無理だ、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
だが、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
さう、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
大、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
一つ、あま、あま、あま、あま、あま、あま、

6の回答について
み人な、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
さ、あま、あま、あま、あま、あま、あま、
あま、あま、あま、あま、あま、あま、
あま、あま、あま、あま、あま、あま、

とこの標準語教育と地域語教育の考察を進めていくにあたり、この課題はたくさんある。あくまでも標準語は日本語教育として、最優先とすべきであるが、実際に日本で生活する以上地域語教育は必要不可欠になりつつあるのとは違っている。また地域語教育にどのくらいの力を入れますか、そのバランスなど、さまざま。今後、標準語教育と地域語の現状を更に深く分析し、それぞれその意義を考察し、これからの標準語教育と地域語教育のあり方はどうあるべきか、つきつめて考えていきたいと思います。

参考文献

1. 岩波講座 (1977) 「日本語の方言」 岩波書店
2. 平山輝男 (1990) 「日本の方言」
3. 徳川宗賢編 (1979) 「日本の方言の地図」
4. 町 博光 (1992) 「今どき けえ 広島弁」
5. 藤原久一 (1977) 「方言学の方法」
6. 小野光一 (1992) 「北海道方言の現在」 日本語教育 70号

付記。指導教官のご協力のおかげで厚く御礼申し上げます。
また留学生センターの先生と留学生にも御礼申し上げます。